

目指す学校像

高き志【こころざし】

地域とともにある

勢いのある学校

No. 21 (R元. 10. 10発行) 文責 校長 福田雅也

その気になって見ないと見えない

10月半ばとなりましたが、日中はまだまだ暑い日が続いています。しかし、朝夕はずいぶん涼しくなり、本格的な秋を迎えるのももうすぐだと思えます。

ところで、「春の七草」は覚えていらっしゃる方が多いと思いますが、「秋の七草」を覚えていらっしゃるのでしょうか。私は、ほとんど覚えていませんでした。「おすきなふくは？」…これが覚える方法だそうです。お…オミナエシ、す…ススキ、き…キキョウ、な…ナデシコ(カワラナデシコ)、ふ…フジバカマ(九州には自生していないそうです。九州で一番近い植物は「サワヒヨドリ」とのことです)、く…クズ、は…ハギ(ヤマハギ)、このように覚えるのだそうです。

私は以前、高森東小学校(現高森東学園義務教育学校)に勤務したことがあります。この学校は、標高800mに位置しており、たぶん県内で一番標高が高い位置にある学校だと思います。学校の周りは外輪山上であり、草原が多く広がっていました。したがって、稀少草花の宝庫でした。標高の高い場所にしか自生していない高森町の町花「ヒメユリ」も学校近くの草原で可憐に咲いていました。

そんな高森東小ですから、秋に講師の先生をお呼びして「野草観察」の学習を行いました。子どもたちは、ちょうど花の時期である秋の七草を含めた16種類の野の花を見つけ、ビンゴを目指すネイチャーゲームを楽しみながら学習していました。単に、野の花を見つけるだけではなく、ビンゴゲームになっているので、子どもたちは夢中になって取り組んでいました。私も、楽しく、また興味深く参加させていただいたのを覚えています。

この学習後のまとめの中で、講師の先生から次のようなお話がありました。それは、「今日見つけた野の花は、みなさんは普段から目にしているけど、その気になって見てないから見えてないのです。」というものでした。このお話を聞いて、深く納得するものがありました。この勉強の後、「その気になって」道端の野の花を見てみると、「あ、これは『オミナエシ』だ。」「こちらは、『ノダケ』だ。」「『アレノギク』は職員住宅の周りにたくさん咲いている。」というように、今まで見えていなかった野の花が見えるようになりました。

そして、このことは「野の花」だけに限った話ではないと強く感じる事ができました。高木小学校では、当然ながら「人権尊重の精神を基底」に教育活動を展開しています。身の回りにあるちょっとした「良いこと」、その反対である「おかしいこと」、「差別」や「不合理」、このようなことも、「その気になって」見ないとなかなか見えてこないのだろうと思えます。それを見ることができなければ、感謝の気持ちを持ち、それを伝えるチャンスを失ったり、みんながつながり合い、楽しくすごすために生活を改善するチャンスを失ったりするのだと思います。

本校が教育活動の基底に据えている「人権尊重」の面から考えれば、「その気になれるかどうか」が、感性の部分といえる「人権感覚」なのだろうと思えます。様々な面で「その気になれる」よう、感性を高めていくことが大切だと改めて感じた機会でした。